

都市景観重要建築物 名古屋市公会堂



市民に愛される文化の殿堂—— 昭和初期公会堂建築の名品

明治42(1909)年11月19日、愛知県豊田郡御器所村(現・名古屋市昭和区)に鶴舞公園が誕生した。公園はその翌年に予定されていた第10回関西府県連合共進会の会場となり、その後、林学博士・本多静六と工学士・鈴木禎次の全体計画により、近世フランス式の洋風庭園と伝統的な日本庭園(設計・村瀬玄中、松尾宗五)を複合した大規模な廻遊式公園が大正年間を通じて整備された。ちなみにJRの駅名は“つるまい”であるが、公園名は元の地名(水流間)通り“つるま”と読む。

その敷地内に、大正13年(1924)1月の摂政宮(昭和天皇)御成婚記念事業として計画されたのが名古屋市公会堂である。御成婚祝賀として建設された公会堂は、他に岩手県公会堂や鹿児島市公会堂(現・鹿児島市中央公民館)などがある。岩手・鹿児島共に昭和2年(1927)

に竣工しているが、名古屋の公会堂は同年ようやく着工の運びとなり、3年半の工期を費やして昭和5年(1930)9月30日に完成した。完成までに時間がかかった理由は、着工時の金融恐慌から世界恐慌に至る長い不況による財源不足だったという。最終的な総工費としては当時の金額で約204万円が費やされた。

設計は名古屋市建築課が担当したが、顧問として武田五一、佐野利器、鈴木禎次らが関わったとの伝聞がある。施工は大林組など。延建築面積は1万1939平方メートル。鉄骨鉄筋コンクリート造。地上4階地下1階。座席数2000の大ホールと同700の4階小ホールを有し、他に9室の集会室を備える。大阪の中之島公会堂(大正7年竣工)、東京の日比谷公会堂(昭和4年竣工)に続き、三都においてそれぞれ特色のある大規模な公会堂建築の揃い踏みが実現した。

建物の1階部分を白っぽい龍山石と人造石ブロック張りとし、2階以上の外壁を焦茶色のスクラッチタイル仕上げとする落ち着いた外観。

直線を基調とした左右対称の平面計画であるが、車寄せと階段室を前面に大きく張り出した姿は単調に陥らない重厚さを付加している。一方、丸味を持たせたコーナーや玄関両脇でアーチ型の突起を持つ独特の塔屋、それに合わせて最上部をアーチ型に丸めた窓からは柔らかな印象を受ける。塔の上部には公園名を象徴する鶴の羽根の意匠が浮彫にされ、全体を引き締める軒周りなど水平のデザイン要素も過不足なく仕上がっている。ファサードの出入口はどっしりとした三連アーチで形成され、ロビー部分は3階までの開放的な吹抜け空間となっている。

竣工以来、市民の文化の殿堂として長く親しまれたが、第二次世界大戦中は高射第二師団の司令部として使用され、戦災は免れたものの、戦後は進駐軍に接収された。米空軍の専用施設としての10年を経て、

名古屋市に返還された昭和31年から内部施設の整備拡充が行なわれ、再び市民の利用に供する公会堂として復活した。

さらに、老朽化に伴い、市制90周年記念事業として昭和55年に建物の保全と機能向上を図る大改修が実施された。3階席まである大ホールには最新の舞台・音響設備が整えられ、日々多彩なイベントに利用されている(現在の席数は1986席)。平成元年(1989)、市の条例に基づき、都市景観重要建築物第1号に指定された。ネオ・ルネサンスの大阪、ネオ・ゴシックの東京と比して、この名古屋市公会堂は最もモダンな要素を体現した昭和初期建築の代表的な名品と位置づけることができる。

文:歴史作家 吉田 茂

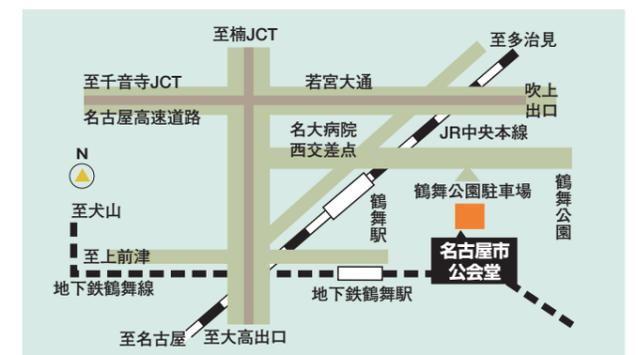
写真:建築写真家 増田彰久

▼「都市の記憶」下記バックナンバーは<http://www.websanko.com>をご覧ください。

・07年II号 横浜市開港記念会館(旧開港記念横浜会館)・06年IV号 国会議事堂・06年III号 大阪市中央公会堂・06年II号 三井本館・05年IV号 明治生命館・05年III号 ハウスサイドビル・05年II号 日本の駅舎とクラシックホテル・04年10月号 「三菱一号館」復元プロジェクト(丸の内)・04年7月号 東京ステーションホテル・04年4月号 聖徳記念絵画館・03年11月号 国立国会図書館国際子ども図書館・03年9月号 ヨネイビルディング・03年7月号 日本生命日比谷ビル・03年5月号 国指定史跡 旧新橋駅舎・03年3月号 登録有形文化財 保存・再生プロジェクト 日本工業倶楽部会館・02年11月号 東京都選定歴史的建造物 近三ビルディング(旧森五ビル)・02年9月号 日本初の輸入車ショールームがあった旧大井町ビル・02年7月号 赤レンガ東京駅復元計画・02年5月号 鉄道発祥の地 旧新橋駅復元プロジェクト(2002/05)・02年3月号 旧日本郵船小樽支店・02年1月号 重要文化財 司法省赤レンガ棟・01年11月号 三信ビルディング・01年9月号 和光ビル(旧服部時計店本社ビル)・01年7月号 神戸市の歴史的建造物群・01年5月号 都選定歴史的建造物 市政会館・日比谷公会堂・01年3月号 横浜市開港記念の歴史的建造物群・01年1月号 重要文化財 日本銀行本店本館・00年11月号 登録文化財 堀商店(堀ビル)・00年9月号 登録文化財 綿業会館・00年7月号 登録文化財 日本工業倶楽部会館・00年5月号 重要文化財 三井本館・00年3月号 重要文化財 明治生命館

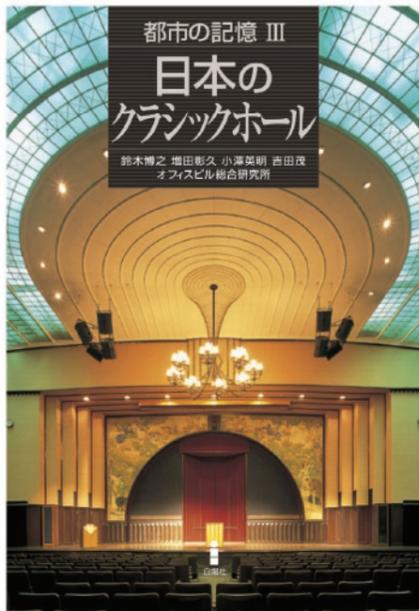
竣工前後 —— 歴史と世相

明治42年 (1909)	・11月、愛知県御器所村(現・名古屋市昭和区)に鶴舞公園が開園。
大正13年 (1924)	・摂政宮(昭和天皇)御成婚記念事業として名古屋市公会堂を計画。 ・関東大震災後の住宅難解決のため同潤会が設立される。
昭和2年 (1927)	・4月、名古屋市公会堂を起工。 ・12月、日本初の地下鉄が東京の上野―浅草間で開業。 ・金融恐慌
昭和5年 (1930)	・9月、名古屋市公会堂竣工(10月開館)。 ・10月、東京―神戸間を8時間55分で結ぶ特急「燕」号の運転開始。 ・世界恐慌が日本に波及(昭和恐慌)



『都市の記憶・日本のクラシックホール』刊行について

オフィスビル総合研究所



都市の記憶 III 日本のクラシックホール

判型:A5版

総ページ:320ページ

著者:鈴木博之(東京大学大学院教授)、増田彰久(建築写真家)、

小澤英明(弁護士)、吉田茂(歴史作家)、オフィスビル総合研究所
定価:3,675円(税込)

発行:白揚社

第1章:成熟した都市の象徴

集いの場としての建築

【鈴木博之／写真:増田彰久】

- 1.人が集う場 2.丸間という日本の原型 3.人が集い、顔をあわせること
- 4.今日は三越、明日は帝劇 5.文明開化の象徴 6.成熟した都市の遺産
- 7.国会議事堂への道 8.建築にとっての場所 9.学園の講堂 10.精神の宿る建築

第2章:魅惑のクラシックホール

41棟をフルカラーで紹介

【写真:増田彰久／文:吉田茂】

旧函館区公会堂 岩手県公会堂 康楽館 山形県郷土館「文翔館」 郡山市公会堂 国会議事堂 日比谷公会堂 歌舞伎座 東京大学大講堂 早稲田大学大隈記念講堂 日本女子大学成瀬記念講堂 旧東京音楽学校奏楽堂 東京女子大学講堂 三田演説館 星薬科大学本館 一橋大学兼松講堂 自由学園明日館 求道会館 大倉山記念館 横浜市開港記念会館 旧松本高等学校講堂 信州大学繊維学部講堂 新潟県政記念館 静岡市議会講堂 静岡県庁本館 名古屋市公会堂 豊橋市公会堂 同志社女子大学栄光館 南座 大阪市中央公会堂 神戸市立御影公会堂 神戸大学講堂 関西学院大学中央講堂 神戸女学院大学記念講堂 奈良女子大学記念館 宇部市渡辺翁記念会館 山口県立山口高等学校記念館 山口県政資料館 琴平町公会堂 鹿児島市中央公民館 活水女子大学講堂

第3章:ダヴィッド同盟:イーグルホールをよみがえらせよう!

【小澤英明】

- 1.なぜ魅力のない建物が増えるのか 2.経営者は倫理的に行動しているのか
- 3.歴史的建造物保存の「費用対効果」分析 4.人間は責任を回避したがる動物である
- 5.危うく残っている歴史的建造物 6.寄付ルートを開拓せよ
- 7.社団法人アーキテクチュラル・ヘリテージ 8.容積率を買う
- 9.歴史的建物所有者の不利益補償システム

第4章:歴史の証人たち

【オフィスビル総合研究所】現存クラシックホール・リスト

『オフィスマーケット』の誌面で2000年3月号より連載をスタートしたPhoto Essayシリーズ「都市の記憶」も、今回の名古屋市公会堂を以って33回目を数えた。また、その間に刊行した2冊の単行本——オフィスビルを中心に採り上げた『都市の記憶 美しいまちへ』(2002年)、鉄道の発展とレジャーの拡がりにスポットを当てた『都市の記憶 日本の駅舎とクラシックホテル』(2005年、共に「白揚社」刊/好評発売中)も幸いに多くの読者に迎えられている。

名建築保存の気運が高まるのと照応して登場してきた各地の都市計画制度の新展開、技術革新がもたらした機能強化・老朽化対策などを背景に、多くの建物が本来の輝きを取り戻して地域活性化の中心的役割を担うようになった。現存する日本の近代建築を紹介してきた私たちの試みが、ささやかながらも歴史的建造物に向けられる人々の眼差しを変化させる一助となったとすれば、関係者一同、これに優る喜びはない。この試みを可能な限り継続し、一人でも多くの人々に志の共有を訴えかけていきたいと、ここに決意を新たにしている。

さて、オフィスビル総合研究所は昨年来進めてきた『都市の記憶 日本のクラシックホール』の制作を完了し、今春、「白揚社」より刊行する運びとなった。東京大学教授・鈴木博之氏によれば、広義の公会堂——ホール——とは、広間の空間を中心に備えた宮殿や邸宅、大学の建物、公共建築、会館等を指す(「平凡社大百科事典」より)。とすれば、わが国においてもそれは、ひとまず貴族の邸宅や江戸期大名の居城、藩校等がその起源であるといえるだろう。しかし、明治維新を経て、自由民権運動や高等教育の広がり、そして大正デモクラシーから戦後の民主化へと向かう歴史の歩みの中で数多く誕生した“クラシックホール”は、それだけで別に近代建築の一系譜を形成するクオリティとボリュームを備えている。今回取り上げた名古屋市公会堂も、それら一連の公会堂建築の一つの到達点であり、文化の殿堂としての役割を今も現役で果たしている点からも特筆すべき価値のある存在だといえる。

『都市の記憶 日本のクラシックホール』には、全国各地の公会堂・議事堂建築、教育機関の講堂等を収録した。日本の近代化を民衆と共に歩んだこれらのホールは、言論・芸術・教養を育む場として現在も活躍し、貴重な都市の記憶を今に伝え続けている存在である。本企画の趣旨は、これらを再評価すると同時に、建築作品としての個別の価値をも広く伝えていくことにある。公会堂や学校建築はオフィスや商業建築以上に地域性を反映しているとも言え、また、これらの建築に市民の浄財を基金とするものが少なくないことも、後世にぜひとも伝えるべき“都市の記憶”だと言える。

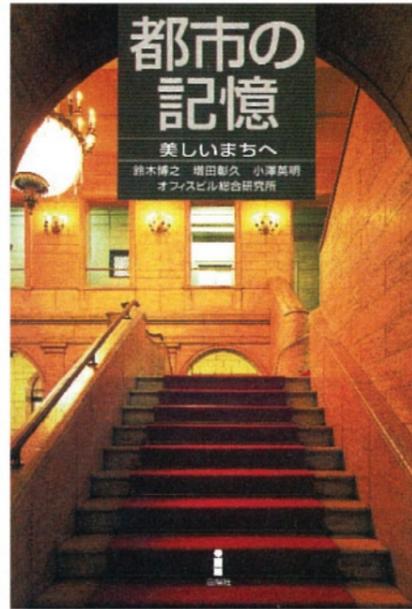
建築史家として歴史的建造物の保存・活用に多数関わってこられた鈴木博之氏(前出)の巻頭論文「成熟した都市の象徴——集いの場としての建築」では、わが国のホール建築のみならず、パリのオペラ座やウィーン楽友協会、ロイヤル・アルバート・ホールなどについて写真と共に詳しく言及されている。また、建築の保存・活用、都市景観等の分野に鋭い視点を有する弁護士・小澤英明氏の書き下ろしフィクション「ダヴィッド同盟」は、前作「モルフォホテルの顛末」に引き続き、物語を楽しみながら多くの法的知識も得られる“教養小説”とも言うべきジャンルを切り拓いて好調である。そして、撮り下ろしを含む建築写真家・増田彰久氏撮影による全41棟をオールカラーで収録(建物解説/歴史作家・吉田茂)。他にオフィスビル総合研究所が独自に調査したクラシックホール建築の最新版現存調査リストを収録し、資料的な価値も高い1冊になったと自負している。既刊のシリーズと併せてご覧いただけると幸いである。

●お問い合わせ

株式会社オフィスビル総合研究所 E-mail:honda@sanko-e.co.jp
電話:03-3561-8088 FAX:03-3564-8040 ホームページ:www.officesoken.com

【既刊のご案内】

写真集



都市の記憶 美しいまちへ

判型:A5版

総ページ:384ページ

著者:鈴木博之(東京大学大学院教授)、増田彰久(建築写真家)、

小澤英明(弁護士)、吉田茂(歴史作家)、オフィスビル総合研究所
定価:3,675円(税込)

発行:白揚社

第1章:都市の記憶を探そう

都市の光景の中には、これまでわれわれが築きあげてきた文化の集積が幾重にも折り重なって潜んでいる。

第2章:魅惑のビルディング

各地に現存する近代化建築遺産 42棟をフルカラーで紹介

旧日本郵船小樽支店 札幌市資料館 秋田市立赤れんが郷土館 三井住友銀行小樽支店 岩手銀行中ノ橋支店 日本銀行小樽支店 青森銀行記念館 旧第九十銀行本店 日本工業倶楽部会館 明治生命館 日本銀行本店本館 和光 神奈川県立歴史博物館 中央合同庁舎第6号館赤れんが館 三井本館 市制会館・日比谷公会堂 三井物産横浜ビル 近三ビル 丸石ビルディング 豊橋市公会堂 愛知県庁本庁舎 砺波市郷土資料館 敦賀市立博物館 綿業会館 南都銀行本店 旧京都中央電話局上京分局 旧居留地十五番館 大阪商船三井船舶神戸支店 三井住友銀行大阪中央支店 タイビル本館 大阪中央郵便局 旧小西備助商店 大阪瓦斯ビルディング 福岡市赤煉瓦文化館 第一勧業銀行大阪支店 旧唐津銀行本店 唐津市歴史民族資料館 日本瓦斯本社ビル 中国銀行倉敷本町支店 旧門司税関 大分銀行赤レンガ館 愛媛県庁舎本館

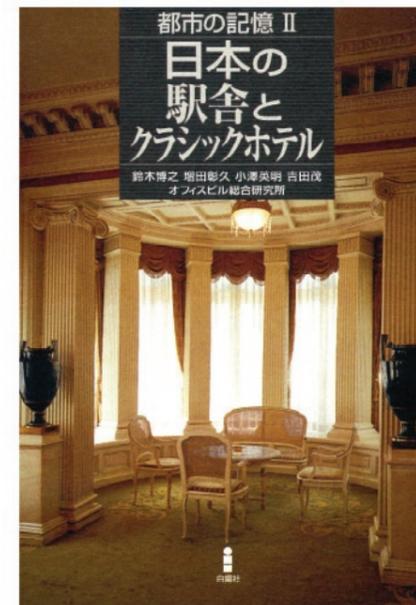
第3章:まちに残る歴史の証人たち

全国各地に現存する歴史遺産 オフィスビルの最新版完全リスト

第4章:歴史と文化を継承する美しいまちへ

21世紀日本の“美しいまちづくり”を考える
対談:法制度の提言
イリタヤ国の登録景観設計士制度見聞記

写真集II



都市の記憶 II 日本の駅舎とクラシックホテル

判型:A5版

総ページ:352ページ

著者:鈴木博之(東京大学大学院教授)、増田彰久(建築写真家)、

小澤英明(弁護士)、吉田茂(歴史作家)、オフィスビル総合研究所
定価:3,675円(税込)

発行:白揚社

第1章:日本近代化の記憶を探そう

近代の始まりを告げた二つの建築 駅舎とホテル。
町に至る道筋の終着地点としての駅、そしてそこで安らぐためのホテルの存在、成熟した都市の個性とはそこに生じるものなのだ。

第2章:魅惑の駅舎とクラシックホテル

全国各地に今も残る近代化建築遺産 47棟をフルカラーで紹介

JR小樽駅 小樽グランドホテルクラシック 豊平館 旧JR室蘭駅 五島軒本店旧館 旧山形交通高島駅 十和田ホテル JR日光駅 日光金谷ホテル 軽井沢万平ホテル 旧三笠ホテル 旧志賀高原ホテル JR上野駅 東京メトロ浅草駅 山の上ホテル JR東京駅 東京ステーションホテル 新橋停車場(復原) 赤坂プリンスホテル旧館 JR原宿駅 目黒雅叙園 JR日暮里・水道橋・東京駅ホーム JR国立駅 ホテルニューグランド 富士屋ホテル 川奈ホテル JR南甲府駅 蒲郡プリンスホテル 旧加越能鉄道井波駅 近鉄宇治山田駅 旧琵琶湖ホテル 旧JR長浜駅 旧JR二条駅 旧JR奈良駅 奈良ホテル 近鉄橿原神宮前駅 南海電鉄浜寺公園駅 南海電鉄諏訪ノ森駅・高師浜駅 旧甲子園ホテル 舞子ホテル 旧山陽ホテル JR西岩国駅 旧JR大社駅・一畑電鉄出雲大社前駅 JR門司港駅 御花 雲山観光ホテル

第3章:モルフォホテルの顛末＝歴史的建造物保存の現行法制度

建て替えか保存か?
ある名建築ホテルの取り壊し騒ぎを題材に歴史的建造物保存問題に関わる現在の法制度を解説。今後課せられた幾多の問題点をあぶり出す。

第4章:近代化ロマン歴史の証人たち

全国各地に現存する歴史遺産
駅舎とクラシックホテルの最新版完全リスト

※購入に関しては左記お問い合わせまでお願いします。